

委員からの主な発言

多田川水系河川整備基本方針について

1. 先人たちの水害に対する知恵や備えの歴史や人と川のかかわりの歴史を整理し、地域や子供たちに伝えていくことが大切である。また、過去、現在そして未来へと子供たちや次世代に伝えていく仕組みを取り入れるとよい。
2. 人と川のかかわりについては同じ地域として北川と南川を含めて調査した方がよいのではないかと。
3. 多田川の計画規模が概ね30年に一度の洪水としていることの整合性など、住民に周知し理解を得ることが大切である。
4. 多田川の計画規模について、費用対効果（事業投資の妥当性）の面からも評価が必要である。
5. 多田川で今後、流量や水位の観測を行うのか？
(河川管理者による回答) 観測していく計画です。
6. 行政から詳しくわかりやすい情報を提供していくことが、川のゴミ問題などの住民の河川愛護精神につながる。

多田川水系河川整備計画（案）について

1. 整備計画で改修される河川は、人が川へ降りられる親水機能にも配慮した方がよい。
2. 河川環境に配慮した河川整備とするため、聞き取り調査などによる過去や現在の生物に関する調査をもっと充実するべきである。
3. 多田川の放水路区間の河床が上昇してきているので、今後モニタリングしていく必要がある。
4. 河川整備のイメージ図だけでなく、河川環境に配慮した川の横断形状（低水路の幅や高さ）や平面形状の設計方針など、河川整備の具体的内容を提示してほしい。